



皇學館

学園報 第52号 発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL:0596-22-6496・8600

●大 学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201(代表) FAX:0596-27-1704
●高等学校・中学校 三重県伊勢市桶部町138
[高校] 〒516-8577 TEL:0596-22-0205(代表)
[中学] 〒516-8588 TEL:0596-23-1398(代表)

注目記事

1面 中・高合同オープンスクールを初開催

2面 EPAに基づく三者協定を締結

3面 スポーツ・芸術の秋、活躍光る

4・5面 “学びと絆”深める旅へ—フィールドワーク報告記

6面 (高校・中学校) 第13回 オーストラリア語学研修 第9回 皇學館中学校・高等学校スピーチコンテストほか

7面 県内外から298名が受講—教員免許状更新講習

8面 平成26年度 新カリキュラムに手応え

連載

2面 皇學館人物列伝② 近藤 空

3面 リレーエッセイ 小椋 猛(中学校事務室事務嘱託)

4面 研究室探訪 Vol.21 鷗沼憲晴ゼミ(現代日本社会学科)

7面 卒業生奮闘中! 中世古祐希さん・西井理道さん(コミュニケーション学科 第42期・平成19年卒)

8面 皇學館ミュージアム「九条家車図」一巻 紙本着色 江戸時代(写)



前日に入念なりハーサルを行い、この日に臨んだ中学校・合唱部。会場となった大学記念講堂には割れんばかりの拍手が響いた



第一回だけの特別企画として、イベント広場ではかき氷やアイスクリームが無料で振る舞われた

「皇學館ブランド」の定着強化へ

本学園では建学の精神に基づき、日本人としての自覚と教養を備えた人材育成に全学一体となって取り組んでいる。その一貫した校風と充実した教育環境を実感してもらおうと、八月三十一日、初めての中・高合同オープンスクールを開催した。中・高だけでなく大学とのつながりも体感している

夏休み最後の日曜日である八月三十一日、中・高合同のオープンスクーを初開催した。太陽が照りつける暑い中にもかかわらず、県内外から約千四百名が来場。撥刺とした在校生の姿を通して本学園の校風を肌で感じていただける絶好の機会となった。

中・高合同オープンスクールを初開催

清明正直の校風を体感

ただのために大学の施設をメイン会場にした今回は、夏休み最後の日曜日にもかかわらず総勢約千四百名が来場。予想を超える参加人数に急遽四百人収容の教室を新たに用意したが、すぐに満席となる盛況ぶりを見せた。当日は、まず平賀秀忠教頭の挨拶に始まり、生徒代表の志村日向君(中学校三年)、青木宏介君、中川初保さん(ともに高校)が挨拶を述べた。

部活動、在校生の姿に納得

その後、小学生は学食体験、模擬授業、クラブ体験へ。中学生は校舎見学、学食体験、クラブ見学へとそれぞれ場所を移動。クラブ見学においてはいずれの部も例年に比べ参加者が増えていることがわかった。中

大会で優勝や金賞受賞を果たしている高校吹奏楽部(三頁)に関連記事掲載による歓迎コンサートでは部員たちの奏でる音楽に会場全体が引き込まれ、ヒット曲「情熱大陸」でのサクソ奏者による演出には感動さえ覚えている印象を受けた。

参加者アンケートでは生徒から「明るく賑やかで、楽しい学校だと感じました」「学校の様子や入試の内容がよくわかり、とても役に立ちました」といった声のほか、「こんなことに驚きました。明日から入試に向けて勉強を頑張ろうと思います」と、早くもライバルを意識した意見も。保

護者からは「案内をしてくれた在校生の立派さを感じました。わが子もこんな風になってほしいと強く思いました」「楽しい時間を過ごさせていただき、ありがとうございます」と、一生懸命部活動に取り組む様子にも感心しました。「きちんとあいさつをしてくれる生徒さんばかりで驚きました。指導がよく行き届いていることがわかり、なおさら

ら子どもを入学させたいと思えました」との感想が寄せられ、在校生の姿に「清明正直」を旨とする本学園の校風を感じていただけたようだ。

なお、今年度最後となるオープンスクールは高校が十一月十五日(土)、中学校が同月十六日(日)の開催を予定している。ぜひ足を運びいただき、本学園の校風を体感していただきたい。

過去最多の来場者を記録!

第二回オープンキャンパス

八月十七日、本学で第三回オープンキャンパスを開催。千三百名を超える来場者を迎える中、リピーターも数多く見られ、本学への関心の高さ

もうかがえた。来場者はそれぞれ目当ての企画を存分に楽しんだようだ。AO入試一般選考等を十日後に控えていることもあり、午前中に行われ

たAO対策模擬講義では本番さながらの内容を展開。熱心にメモを取る参加者も多く、講義終了後も担当教員に積極的に質問する光景も見られた。

午後からは各学科ごとに体験型プログラムを実施。たとえば、国文学科では絵解きパズルで人物を紹介、国史学科ではクイズで古代史の謎を解くワークショップを、教育学科の学校教育コースではマジックを使って子どもをひきつけるテクニクを学ぶ等々、それぞれ趣向を凝らした内容で参加者の興味をひいていた。

また、今年度は式年遷宮の翌年にあたる「おかげ年」。この年に参拝すると特別なご利益があると伝わる。そうしたこともあってか「内宮・おかげ横丁ツアー」が大盛況。参加者は学生スタッフの案内で伊勢の魅力に触れ、満足そうな表情を浮かべていた。



カフェで学生スタッフに相談する参加者たち



寮生活に関する学生スタッフの説明に参加者は耳を傾けた



高校・弓道部にクラブ見学を訪れた参加者たち



中学校では「英語」「理科」「社会」「家庭」の体験授業が実施された。写真は理科室で行われた「サイエンスアドベンチャー」

倉田山 春秋

大学生テレビ局が制作した番組が県内のケーブルテレビで放映されている。また、You Tubeにもアップされて、ネットに接続された環境があればどこでも見ることが出来る▼番組の内容は学生が関心をもったことや疑問に思ったことを取材しながら調べていく過程を描いたドキュメンタリー番組である▼番組の制作過程での様々な体験を通して、地域社会の魅力の発見やそれを活用した活性化などにつなげていこうというのがねらいである▼これまでに七本の番組が制作され、御頭神社、書道を中心に見た伝統文化、ジャズと河崎、神都線の電車、伊勢と野球の歴史、三島由紀夫潮騒、伊勢の注連縄がテーマとなっている▼ステレオタイプのなまごめになつていける番組もあるが、いずれも関係する人々に話を聞きながら進める手法になっており、これまであまり知られていなかった証言なども含まれていて、見ごたえのある内容となっている▼今後は、You Tubeでの英語版の公開や人物インタビューを通して課題解決のヒントを得る番組が検討されているという。新たな切り口が楽しみである。

外国人看護師候補者を支援 県内初 EPAに基づく三者協定を締結

伊候補者への支援に関する協定締結 三重県・伊勢赤十字病院・皇學館大学



左から、伊勢赤十字病院の村林紘二院長、三重県健康福祉部医療対策局長の佐々木孝治局長、清水学長

本学ではこのたび三重県、伊勢赤十字病院との間でEPA（経済連携協定）に基づく外国人看護師候補者への支援に関する協定を締結。その締結式が八月二十五日、三重県庁にて執り行われた。

外国人労働者の受け入れなど「人の移動」の推進・円滑化は、幅広い分野における経済的な連携の強化をめざすEPAの趣旨に沿う重要な分野として位置づけられている。そのEPAに関連してこうした協定が締結されるのは県内では初めて

今後の具体的な取組みとしては日本とEPAを締結しているベトナムからの看護師候補者一名のサポートを決定。両国間において定められた期間に候補者が日本の看護師国家資格を取得できるような支援し、看護師として日本で継続的に就労できるように支えていく。本学においては週に一回、二時間の授業を教育開発センターで受け持ち、候補者が日本語で円滑にコミュニケーションがとれるようスキルアップを図る。

であり、全国的にも珍しい。式には本学から清水潔学長のほか齋藤平教育開発センター長（国文学科教授）が出席。外国人看護師候補者に対して①日本語教育支援、②伊勢赤十字病院における就労研

修に関する支援、③看護師国家資格取得に向けた支援、④受入施設（伊勢赤十字病院）の研修体制整備に関する支援、以上の四点に関して三者間で連携して行うことを確認した。

ベトナム人候補者に日本語指導

近年、地方における看護師不足の問題がクローズアップされているが、三重県も例外ではない。こうした地域の課題解決に現場と官学が一体となって取り組む必要性は今後ますます高まるであろう。地（知）の拠点を掲げる本学にとり地域貢献は重要な使命だ。これからは重要な使命だ。これからは重要な使命だ。これからは重要な使命だ。

保護者・教職員双方で学生を支える 専の会地区別教育懇談会を開催

本年も大学の教育方針や現況を説明する「専の会地区別教育懇談会」が八月三十日、九月七日に、全国九会場（浜松・名古屋・四日市・津・名張・伊勢・京都・神戸・福岡）で開催された。「専の会」は保護者会の名称で、学生を「花」に見立て、保護者を開花・結実を支える「専」に例えたこと由来する。今年度の教育懇談会には前年より約一割増の三六四名の保護者が参加した。ここ数年、前年を上回る申し込みをいただいております。保護者の大学教育への関心の高さを改めて感じている。

いずれの会場でも、「全体会」「個別懇談会」「懇親会」が行われた。懇親会では学長代理による大学の現況報告、大学事務局による学園の管理運営報告、就職支援担当者による就職状況説明がなされた。三十分という限られた時間ではあるが、大学の将来計画や就職支援についての全体像をご理解いただけたと考えている。個別懇談会では各学科の教員が保護者にマンツーマンでご子息・ご息女の履修状況や成績を説明するもので、進路に対する希望や実現に向けたアドバイスなどが具体的に話し合われた。懇親会では立食パーティー形式で行われた。教員や同学科の保護者との距離が近くなるため、全体会や個別懇談会では聞くことができなかつたさまざまな情報を得られることが懇親会の最大の利点である。

保護者の方にとって懇談会は就職や大学生活に関して相談でき、教職員との交流を深める貴重な機会となっている

『女神の聖地 伊勢神宮』が 学校図書館選定図書に



千種清美 非常勤講師

このたび拙著『女神の聖地 伊勢神宮』が、全国学校図書館協議会選定図書になりました。選定図書は年間八万点を超えるという出版物から、学校図書館に適していると推薦を受けるものです。伊勢神宮の式年遷宮に関する式年遷宮は、なにより継続が大切であることに気づきました。

千種清美 非常勤講師
た。千三百年の歴史を刻む遷宮は、人々のリレーによって、中断時期を乗り越え今に伝わってきました。現代の私たちが次の世代に伝えなくてはなりません。しかし、お伊勢参りはブー

ムにはなっていますが、本当に伊勢神宮や遷宮の意義が次世代に伝わっているのでしょうか。そこで今回は女性や女神という新たな視点で伊勢神宮を紐解きました。別の角度から光をあてると、物体が異なって見えるように、神話や地域の伝承などに女性ならではの柔らかな感性や育む力、しかしながら信念を曲げない「つよからぬ」強さを感じたのです。細い竹がしなやかに折れないように、しなやかさゆえの強さ、これこそが、多くの人々の心を動かし、長く大きな流れを作ってきたのでしょう。式年遷宮が続く限り、伊勢神宮はこれからも私たちに多くのことを教えてくれるはずだ。

皇學館 人物列伝 24

近藤 柰 (こんどう もく)



明治17年三重県生。昭和2年大東文化学院高等科卒業。大東文化学院教授を経て昭和5年神宮皇學館教授、昭和17年神宮皇學館大學講師。廃学後、立命館大学講師。1884~1965。

十年一事に徹した漢学者

近藤柰は現在の三重県いなべ市藤原町本郷に生まれた。幼少の頃から圓琳寺住職であった梅田春濤の赤心学校で漢学を学んだ。独学で検定試験により中学校教員の資格を得て、三重県立第二中学校（現・四日市高校）教諭を務めた。この時期の教え子に作家の丹羽文雄がいる。

大正十四年（一九二五）、四十一歳の時に大東文化学院高等科へ入学した。同学院は、欧化主義に対する反省から、帝国議会において漢学振興を図ることが決議され、それを背景として設立されていた。昭和二年（一九二七）卒業後直ちに同学院の教授に就任した。

近藤柰の名が現代に至るまで記憶されるのは『支那学芸大辞彙』による。本書の特色としては、各事項についての主要な研究書や論文を付記していることが挙げられよう。各種のデータベースが完備する現代でも主要な先行研究を文献ごとに整理するのは至難の技であるが、それを個人で調べ上げ、丁寧に付記していることは近藤の誠実な研究態度と人柄を物語っているといえる。本書に着手したのは昭和三年のことであった。昭和五年、神宮皇學館へ教授として赴任。昭和十年、『支那学芸大辞彙』を脱稿した。序文の漢詩には「於神都風松軒」とあり、また凡例にある「癸凡」の末尾には「神宮皇學館研究室に於て」との識語がある。郷里である伊勢国にある皇學館の教授としてこの書を完成させたことは、戦後、いなべや桑名の郷土史を編集したことも勘案すると、一種の誇りであったように感じられる。『支那学芸大辞彙』の題字は神宮皇學館長平田貫一の手になる。近藤は学生に「十年一事に徹す」と説いたと伝えられるが、本書執筆の年月と重なるように見える。

本書は、近藤の子息春雄氏によって増補改訂され、『中国学芸大辞典』として現在も中国学を専門とする者のみならず、中国古典を学ぶ者にとって基本的な書物となっている。（国文学科教授 齋藤 平）

スポーツ・芸術の秋、活躍光る

スポーツ・芸術の秋。本番。全国各地で競技大会やコンクールが開催され、本学園の学生・生徒が日頃の練習の成果を發揮した。以下に、とくめざましい活躍を見せた部活動・選手を紹介する。

男女五名が全国大会へ

大学 柔道部

三重県の「育成指定運動部」に選出された本学柔道部。八月三十一日に愛知県武道館で行われた東海大会(個人戦)では九名が入賞! そのうち、栗村雅彦君(100kg超級・教育学科二年)、寒川綾子さん(52kg級・同学科二年)、熱田桂也君(100kg超級・コミュニケーション学科二年、伊藤光明君(90kg級・同学科二年)、大木雅人君(90kg級・教育学科一年)の五名が第三位以内に入賞し、全国大会への切符を手にした。

本武道館で開催された全国大会に臨んだ彼ら。四名は惜しくも初戦敗退となったが、伊藤君は得意の払巻込をみごとに決めて一本勝ち。二回戦では強豪である国際武道大学の若林大作選手に敗れ三回戦進出はかなわなかったものの、「全国レベルの選手と戦ったことで自分の課題が見えてきたし、もっと強くなりたいという気持ちが高まった。こ

れからも練習に励んで、またここに来たい」と来年に向け早くも闘志を燃やしていた。佐藤武尊監督は「負けて腐らず、自らを低く見積もることなく、ただただ前向きに頑張ることが大切。今後もチーム全体がステップアップしていくような、精進あるのみ」と話し、「応援してください。すべての人に感謝しながら、部員一人ひとりが自分ができることを一つずつ着実に増やしていければ」と抱負を語った。



東海大会が開催された愛知県武道館にて、賞状を手に記念撮影

力出し切り、ベスト16

高校 女子バドミントン部・ダブルス

全国高校総体バドミントン学校対抗戦が千葉県で八月一日から六日にかけて行われ、四日の個人対抗ダブルスに出場した川添麻依子さん(三年一組)、谷水亜里紗さん(一年一組)ペアがベスト16に入った。二回戦、三回

戦を二〇で勝ち上がり、ベスト8をかけて迎えた四回戦。一セット目を先取するも、惜しくも一一で敗退となった。川添さんは「この春からペアを組んでインターハイで勝つことを目標に日々練習に取り組んでき

た。練習はつらく厳しかったが仲間や先生方が支えてくれ、周りにもたくさん応援してくださる方がいたのでみんなの為にという気持ちが大きかった」と今大会を振り返る。

た。谷水さんは「初戦こそ緊張したが、のびのびと自分たちのプレーができたので、いい試合運びになったと思う。ベスト8をかけた試合は接戦で負けてしまい悔しかったが、自分たちのすべてが出し切れたことと、課題が見つかったのはよい経験になった。今後、この経験を活かしてさらに上をめざしていきたい」と力強く語った。

なお、県の強化指定クラブに選ばれている女子団体は四年連続四回目の出場。初の初戦突破を果たした。今後の活躍に注目だ。

二年連続、全国大会出場

中学校 女子バドミントン部・ダブルス

八月十九日から二十一日にかけて愛媛県で行われた全国中学校バドミントン大会・女子ダブルスに齋藤柚さん(三年A組)、山本綺音さん(二年B組)ペアが出場。初戦を突破し、ベスト16入りを果たした。

齋藤さんは「二年連続で出場し、最後の全国大会で一勝できたことは素直に嬉しい。目標はもっと上だったので少し悔しさは残るが、全国大会はレベルが高く、勝利が難しいことを実感した。この悔しさを忘れず、高校でもっといい成績を出せるよう頑張りたい」と今後の目標を語った。山本さんは



東海大会で優勝した齋藤(左)・山本ペア

「今のパートナーと組む最後の夏だった。練習では迷惑もかけたし、さまざまなことがあったが、東海大会で優勝し全国大会に出場できたことはよかったです。来年はシングルとダブルスでこの経験を活かしたい」と雪辱を誓った。同部顧問の安井浩子先生は「二人の高い目的意識があつてこそ、全国大会ベスト16入りを達成できた」と労いつつ、「学校、生徒の皆さんのご支援、応援に支えられここまでやってきた。感謝の気持ちを実績を積み重ねることでお返ししたい」と語った。

県・東海大会で二年連続金賞

高校 吹奏楽部

八月十三日、三重県吹奏楽コンクールが開催され、高等学校A編成の部で高吹奏楽部が昨年に続いて優勝し、朝日新聞社賞を受賞した。続く二十四日、同部は静岡県のアクトシティ浜松で行われた東海吹奏楽コンク

ルに出場。高等学校A編成の部で二回連続となる金賞を受賞した。全国的に有数の激戦区といわれる東海地区での二年連続受賞は快挙といえる。「昨年の金賞チームも大きく、生徒にもプ

レッシュヤーはあつた。しかし結果を気にすることなく、伸びやかな演奏を心がけたことが評価につながった」と顧問の前川幸生先生は分析する。九月二十一日は、第七回の定期演奏会を伊勢市文化会館で開催。二回公演のチケットは発売後すぐに完売になるほどの大盛況。当日は金賞受賞曲の「勇氣のトビラ」(高橋宏樹作曲)や吹奏楽のための交響曲「モンタージュ」(グレイム作曲)の演奏に、会場を埋め尽くした観客は惜しめない拍手を送った。また曲の途中で部員に混じってアニメのキャラクターに扮した前川先生が登場するなど、趣向を凝らしたパフォーマンスで会場を盛り上げた。

来年の目標は三重県・東海大会の三連覇と、念願の全国大会への出場・入賞だ。「そして何より、吹奏楽部の活動を通して、生徒たちが人間として大きく成長し、いつまでも音楽の楽しさを忘れないでいてくれることが一番の目標」と前川先生。来年も同部の活躍に期待したい。



本格的な演奏と、生徒が自分たちで考えたパフォーマンスで会場を盛り上げた

リレーエッセイ 私の学生時代

大事なものは、見えにくい

中学校事務室事務嘱託 小椋 猛 三重大学教育学部卒



そこにはツタの絡まるチャペルもボラ並木もありません。あるのは、広い空と真新しい校舎群と植栽されて整然と並ぶ若木たち。丸の内から広大な上浜キャンパスへ移転し、総合大学へ歩み始めて数年。殺風景でした。けれども、学生達に勢いが、まず、大学生協の設立です。生協食堂と書籍部と購買部の新設に動きまわります。各学部と連携して大学側との交渉を重ね、実現に向けて加速しました。その頃は、東大入試中止の後で、大学紛争のピークを過ぎた時期です。各所に立看板とハンドマイクを通した各セクトアジ演説がBGMのように聞こえます。自分を取り巻く様々なしほりや慣行や制度への反発と、それからの解放を声高に訴えています。それが自由の観念だと考えていた若い頃の私もそこに居ました。また、仲間や先輩との時間を忘れる議論が刺激です。何も知らない自分に気がき、自己嫌悪に陥り、それをバネに、自分なりのもの見方と考え方を創造します。そんな繰り返しの毎日が快適で充実した時代でした。教育実習中のことです。当時の付属中三年生は、大学受験参考書を二〜三冊机の上に積み上げていました。生徒自身の手を添った。また曲の途中で部員に混じってアニメのキャラクターに扮した前川先生が登場するなど、趣向を凝らしたパフォーマンスで会場を盛り上げた。来年の目標は三重県・東海大会の三連覇と、念願の全国大会への出場・入賞だ。「そして何より、吹奏楽部の活動を通して、生徒たちが人間として大きく成長し、いつまでも音楽の楽しさを忘れないでいてくれることが一番の目標」と前川先生。来年も同部の活躍に期待したい。

先人に恥じぬ生き方を

国史学科3年(松浦ゼミ)
高里 智佳

秋風を感じつつ、松浦先生のご引率の下、私たちは鹿児島・山口で先人方の跡を辿った。

「若桜」の面影を探し、鹿児島では近年まで知られていなかった十三塚原という特攻隊基地、そして知覧に行き、英霊に感謝をしつつ、英霊の瞳に映る“今”を考えながら四日間の研究の旅を始めた。

翌日は薩摩の志士たちの生誕地や、地元の方々に愛された西郷隆盛のゆかりの地を巡った。南洲翁終焉の地では静かに舞い落ちた秋葉に、



松陰神社にて上田宮司と記念撮影

翁を亡くした当時の方々の思いを感じた。夕方には桜島を背に、鹿児島を離れ下関に入り、秋雲浮かぶ桃色の空や霞む山々と、秋風吹く下関の海を眺めつつ、志士に思いを馳せた。

下関の海が持つ歴史を学び、赤間神宮への参拝で三日目を始め、下関に名残を惜しみながら萩へと向かった。

萩ではこの小さな村の八畳の畳から時代を担った志士たちが生まれたことに驚くばかりであった。松陰神社での正式参拝、松下村塾の見学やお話には背筋の伸びるものを感じ、長州藩士が生まれた萩城下では、静かに燃える志士の魂の面影を見ることができた。

そして何よりも、松陰先生と高杉晋作のお墓、木戸孝允の邸宅跡で見た、黒の羽に青い線を持った蝶が忘れられない。松陰先生と弟子たちゆかりの場所でのみ同じ蝶を見たことは、私たちに「遠くの声」を感じさせ、応援か、はたまたお叱りをくださっているのではと思い、先人に恥じぬ生き方をしよう、と強く思う研究の旅となった。

多文化を肌で実感

コミュニケーション学科3年(豊住ゼミ)
橋爪 杏奈

私たち豊住ゼミの行先はシンガポール。シンガポールは日本人にとって身近なアジアの国のひとつであり、先進国かつ多民族・多文化国家である。英語や異文化間コミュニケーションを学ぶ私たちはこれらを実際に体験できる国であると考え、旅行先にシンガポールを選んだ。

日本を離れると、何をやるにしても英語を話すことになる。「英語なら何とか伝わる」と思っていたが、実際に会話を試みると言葉はうまく伝わらなかった。日本を離れてから出会う人たちで実際に英語を母語としている人はごくわずかで、ほとんどの人は私たちと同様に英語を学んだ人だった。会話するうえで片方が母語話者であれば、片方が片言で話しても内容を察してわかりやすく返答することで会話は成り立つ。しかし両方が母語話者でない場合、察することは難しい。お互いの持つ知識が異なるため、伝えようとしても表現



マライオン公園にて

が合致しないなどでなかなか伝わらない。うまく話すことよりもわかりやすく話せる能力の必要性に気づくことができた。

初めに挙げたように、シンガポールは多文化国家である。イスラム、ヒンドゥーの文化を見ることもできた。それぞれの教徒が暮らしているなかにモスクや寺院があり、私たちも入ることができた。それらは実際に使われているもので、礼拝を行う人も次々にやってきた。神聖な場所であるため、私たちも当然しきりに従う。肌を露出してはいけないかったり、裸足でなければいけないりする。こういった経験は日本にはなかなかできない。貴重な体験ができたフィールドワークであった。

学 科	引率教員(敬称省略)	日 程	目的地・方面	
神道	加茂正典	9/15(月)~18(木)	東北地方	
	菅野覚明	9/10(水)~13(土)	函館・札幌・南恵庭駐屯地	
	松本 丘	9/10(水)~13(土)	滋賀・福井・岐阜	
国文	大島信生	9/9(火)~12(金)	福岡・佐賀・長崎	
	齋藤 平	9/9(火)~12(金)	岩手県	
	高倉一紀、三品理絵	9/9(火)~12(金)	東京・鎌倉	
	深津睦夫	9/10(水)~13(土)	鎌倉・伊豆・東京	
	中川照将	9/15(月)~17(水)	京都	
	岡野裕行	9/14(日)~18(木)	東京方面	
	上野秀治	9/12(金)~15(月)	熊本・大分	
国史	岡田 登	9/11(水)~15(月)	対馬・壱岐・北九州	
	岡野友彦	9/14(日)~17(水)	東京・千葉・茨城	
	松浦光修	9/10(水)~13(土)	鹿児島・下関・萩	
	多田實道	9/8(月)~12(金)	中国・四国方面	
	富永 健	9/10(水)~13(土)	東京・鎌倉	
現日	橋本雅之、上野文枝	9/9(火)~12(金)	九州(長崎・福岡方面)	
	板井正斉	9/9(火)~12(金)	北海道(知床)	
	岩崎正彌	9/9(火)~12(金)	東京	
国文	上小倉一志、松下道信	9/15(月)~18(木)	台湾	
国史	田浦雅徳、谷口裕信、堀内淳一	9/8(月)~12(金)	台湾	
海	児玉玲子、山田やす子	9/8(月)~12(金)	シンガポール	
	豊住 誠、川村一代	9/9(火)~13(土)	シンガポール	
	張 磊、芳賀康朗	9/15(月)~18(木)	台湾	
	筒井琢磨、藤井恭子	9/11(水)~14(日)	台湾	
外	神道・コミ	河野 訓、外山秀一	9/15(月)~18(木)	台湾
	コミ・現日	前田至剛、笠原正嗣、榎本悠孝、関根 薫	9/8(月)~12(金)	グアム

次は私が日本の素晴らしさを伝えたい

現代日本社会学科3年(筒井ゼミ)
服部 貴子

私たち筒井ゼミの行先は台北である。事前学習で調べていた九份、台北101タワー、中正紀念堂、国立故宮博物院、龍山寺など多くの名所に行き、歴史的建造物や台湾の人々の文化を直接目で見て、感じるこ



九份にて(藤井ゼミと一緒)

できた。

しかし街の雰囲気は日本のお店も多いためか、日本とさほど変わらない印象を受けた。食べ物は日本人の口に合う薄味仕上げで、中でも小龍包はとて

台湾北部の猫空にある茶畑を見学した後は、有名な台湾茶について知識を深めるため、今回の研究旅行のメインともい

私は今回初めて海外に行ったが、台湾の人々の親切さや、歴史、素敵な茶の文化に触れ、とても感激した。この経験を生かし、今度は私が日本の素晴らしさを

研究室探訪

vol. 21

鵜沼憲晴ゼミ
現代日本社会学部
現代日本社会学科

福祉業界で活躍するために必要な多彩な視点を身につけてほしい。

今回訪問したのは、現代日本社会学科の鵜沼ゼミ。毎週水曜日、4名の学生が先生の研究室に集まり、なごやかな雰囲気の中にも活発な議論が行われていました。

鵜沼憲晴 教授(社会福祉分野/テーマ:権利擁護)



福祉の仕事は、見た目よりも大変です。でも現場の人たちはゆるぎない価値観と矜持を持ち、利用者の権利や生活、人生を支えるために日々奮闘されています。そこで、私のゼミでは福祉業界をめざしている学生に、現場の人々がどんな環境で、どんな思いを持って仕事をしているかを知ってもらうために積極的に福祉施設などの現場訪問を行います。研究旅行でも、学生が「この施設を見たい」「この人に話を聞きたい」と自発的に企画し、手配まですべ



て行いました。ほかにも学生から希望があれば、ボランティアも斡旋します。こうして多くの現場を体験し、そこで学んだこと、感じたことを全員で話し合うことで、福祉を多彩な視点から見つめる力を身につけてほしいと思っています。とくに本学科は社会福祉以外にも政治経済、地域社会、伝統文化などの講義が受講できますから、視野を広げるには最高の環境です。将来、彼らが福祉業界を支える力となることを期待しています。

学生コメント

どんな相談にも親身になってくれます
山口 舞さん 現代日本社会学科(社会福祉分野)4年



鵜沼先生の授業はいつも私語禁止で、とても緊張感にあふれています。でも、授業後には学生の相談に親身になって乗っていただけます。授業への質問はもちろん、私の就職活動の面接カードや小論文の添削、面接練習まで嫌な顔一つせずお手伝いしていただきました。おかげで、第一志望だった三重県庁の福祉技術職に就職が決定しました。4年生の秋学期は、いよいよ社会福祉士の試験や卒業論文が待っています。先生、これからもよろしくお願いします。

視野が広がりました

野川 真君 現代日本社会学科(社会福祉分野)4年



2年次の鵜沼先生の「社会福祉援助技術演習」という授業がとてもわかりやすかったので、当時から鵜沼先生にお世話になっていました。このゼミの中で先生から一番教えられたのは「さまざまな視点からものを見る大切さ」でした。私が自分の思い込みでレポートを書くと、必ず「こういう見方もある」「こんな考え方もできる」と教えていただき、とても勉強になりました。ここで学んだ視野の広がり、就職してから絶対

"学びと絆" 深める旅へ

フィールドワーク報告記

9月8日から18日にかけて、多くのゼミが国内・海外でフィールドワーク(研究旅行)を実施した。学生たちは歴史的建造物や現地の人々と触れ合うことで新たな発見をしたり、仲間との絆を深めたりと充実のひとときを過ごしたようだ。

北海道開拓に多くを学ぶ

神道学科3年(菅野ゼミ)
榮 見 樹

今年度の菅野ゼミのフィールドワークは函館・札幌方面で、武士の思想にかかわる史跡や施設の見学・研修を行った。まず、函館八幡宮に正式参拝し、函館奉行所時代から戊辰戦争・明治維新にいたる神社の歴史についての講話を拝聴した。函館八幡宮は北海道の開拓に関わる神として道民からの崇敬を集めた神社である。現在の社殿は明治から大正にかけて改築されたもので、本殿が聖帝造で権現造風の八棟造となっていることから聖帝八棟造と称している。



函館八幡宮にて

参拝後、市指定文化財でもある神輿を見学するなど、貴重な体験をすることができた。

函館は路面電車、五稜郭、教会などの歴史的建造物も多くとても楽しめた。とくに夜景は古くから世界三大夜景のひとつと賞されており、とても幻想的な風景が広がっていた。

札幌への移動途中に立ち寄った小樽では、小樽運河や町並みを散策した。運河沿いの石造倉庫群は当時の姿のまま残されていた。また、北海道開拓村は、北海道の各地の明治時代から昭和時代の建造物を集めた博物館で、馬車等も走っており、当時の生活を知ることができた。北海道大学のクラーク博士像の前では記念撮影をした。

最終日、南恵庭駐屯地では現代の安全保障や、自衛隊の災害派遣活動についての講義を受けた。また、装甲車や戦車の試乗、災害で活躍する重機の操作などの体験をした。

今回のフィールドワークを通して北海道開拓の歴史、安全保障などについて多くのことを学ぶことができた。

学んだことを次に繋げる

国文学科3年(深津ゼミ)
古 味 夏 実

私たち深津ゼミは関東に向かった。三泊四日の旅の初日は東京に赴き、上野にある東京国立博物館を見学した。次に、神保町の本町通りを見学した。ホテルはスカイツリーが正面に見えるところにあり、夜のライトアップがとても綺麗だった。

二日目は、朝の通勤ラッシュにもまれながら鎌倉へと向かった。鎌倉では観光バスに乗って鎌倉の名所をめぐった。建長寺、鶴岡八幡宮、鎌倉宮、長谷寺、高德院の大仏などをバスのガイドさんの説明を受けながらめぐることができ、色々と勉強になった。江ノ島電鉄に乗れたのも、いい思い出になった。

三日目は箱根で、ここでは箱根神社での正式参拝があった。朝は箱根登山列車やケーブルカー、ロープウェイ、芦ノ湖遊覧船など箱根で有名な乗り物を乗り継ぎながら箱根開所跡に行った。その後、箱根旧街道杉並木を全員で歩き、いよいよ箱根神社へ。正式参拝ということで本殿の



箱根神社にて

中まで入り、とても貴重な経験ができたと思う。全員緊張した様子だったが、無事に参拝をすることができた。その後、宝物館や境内の説明までしていただき、とても勉強になった。

最終日は伊豆に向かい、伊豆近代文学博物館を見学した。伊豆にゆかりのある作家たちの資料を見ることができてとても感動した。その後、浄蓮の滝を見学。そのあとは頼朝流刑の地、蛭ヶ小島に向かった。蛭ヶ小島にある茶屋の方が歴史等を丁寧に説明していただき興味深かった。

あつという間のフィールドワークだったがたくさんのことを学べ、とても充実した時間だった。ここで学んだことをこれからの学習にも繋げていけるように頑張りたい。



11月1日から7日は「教育・文化週間」です

教育・文化週間は教育や文化への関心と理解を深め、充実・振興を図ることを目的として設けられ、今年で56回目を迎えます。

本週間の期間中には、全国各地で教育・文化に関する様々なイベントが開催されます。興味のあるイベントにぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

- 博物館や美術館の無料公開や特別展示
- 伝統芸能・工芸の鑑賞会や体験講座
- 地域住民が日頃の活動成果の発表を行う市民文化祭
- 図書館、公民館などでの各種講演会・講座
- 大学等における公開講座
- 子供向けの自然体験教室 等々

詳しくは http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kyoiku-bunka/

倉陵祭開催

10/31(金)~11/2(日)



講演会

11月2日(日)

開場 ● 9:30
開演 ● 10:30~12:00
会場 ● 皇學館大学
記念講堂

(入場無料・先着順)

辛坊治郎氏

「正しい判断は正しい情報から
~辛坊治郎の冒険訓~」

ニュースキャスターとして活躍する辛坊氏が小型ヨットでの太平洋横断挑戦中に遭難し、自衛隊に救出された経験から得た教訓を語る。

辛坊氏の講演やアーティストライブ、模擬店、ステージ発表など楽しいイベントが盛りだくさん!ぜひ足をお運びください!

アーティストライブ

11月1日(土)

開場 ● 17:00 開演 ● 18:00~20:00
会場 ● 皇學館大学記念講堂

(入場無料・要整理券)

※整理券の配布についてはHPをご覧ください。

Juliet

マイク、ユミ、ハミからなる大注目目の3人組ボーカルユニット。「ナツラブ」が着うた®ランキング1位を獲得!共感度200%のリアルな歌詞が10代、20代の女の子を中心に絶大な支持を得ている。



問合せ 学生支援部 学生担当 ☎0596-22-6317

皇高NEWS



動物園の前でローズヒル校の生徒と一緒に記念撮影

研修を機に海外へ視野広げ

第13回 オーストラリア語学研修

七月二十一日から八月三日までの二週間、オーストラリア・メルボルンにおいて語学研修が行われた。

本校の姉妹校であるローズヒル・セカンダリー・カレッジとの交流も今年で十三年目を迎えた。今回は十四名の生徒たちが本校の代表として様々な場面で積極的に活動し、ローズヒルの先生方やホストファミリーから非常に高い評価をいただいた。課題をクリアし、成長する生徒たちの姿を見て嬉しくもあり、また頼もしくもあった。

今回の訪問でもう一つ嬉しい出来事があった。本校の卒業生であり、四年前にこのプログラムに参加した山下君とメルボルンで再会したことである。驚いたことに、彼は今ローズヒル校で日本語の授業を助手として手伝っているのだ。彼が留学を決意したのは、この語学研修での経験が非常に大きかったという。研修を機に自身の視野が海外に開けたのだ。

研修の第一目的は語学力を高めることである。が、同時に生徒たちの目を海外へ向けることも大切な目的の一つだ。山下君のように卒業後に留学した語学研修生たちは非常に多い。

今回の語学研修生たちもこれらからどんな世界に羽ばたき、活躍してくれるものと期待している。

国際交流担当 角屋重文

校友会役員選挙で二名が信任

七月五日に行われた校友会役員選挙で立候補者全員が信任された。以下に三名の抱負を紹介する。

サポート役にやりがい

総務委員長 青木 宏介

総務委員長になって思うのは、想像と違い、とてもこまごまとした用事が多いということです。でも、そうした作

業を丁寧にこなしながら、行事の度に全校生徒のサポート役に徹することにとてもやりがいを感じます。校友会メン

みんなで創る皇學館

総務副委員長 荒木 美来

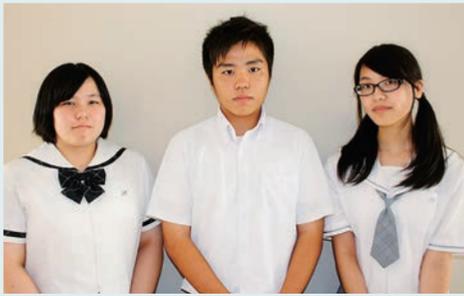
五年間、クラスメイトや先生方からたくさんのパワーをいただけてきました。今度は与える側になって、恩返しをしていきたいです。私なりの恩返しとは、生徒全員が私のように「皇學館を選んでよかった」と思えるような学校づくりに取り組むこと。その第一歩として、生徒の希望や要望をできるだけ取り入れ全員

生徒の意見を伝えられる存在に

総務副委員長 中川 初保

校友会本部役員としての私の目標は、卒業する際、皆さんに「皇學館に来てよかった」と思ってもらうことです。皇學館はとて良い学校です

が、まだ改善する余地があります。現状に満足せず、さらに良い学習環境で楽しい学校生活を送れるよう、全力を尽くしたいと思います。



左から、荒木さん、青木君、中川さん

そのためにも、私たちは生徒の声を直接学校へ伝えられる存在になることが大切だと考えています。大きな変化をもたらすのは難しいですが、生徒の皆さんにとって少しでもプラスにつながることであれば嬉しいです。

皇中NEWS

力を合わせ楽しんだ体育大会

延期されていた体育大会が九月二十一日に無事開催され、グラウンドには生徒たちの歓声が響いた。以下に生徒の感想を掲げる。

協力して楽しむことを学ぶ

三年B組 武藤里歩

私は体育大会を終えて、みんなで協力して楽しむことを学びました。一番印象に残った競技はチャレンジジャー・ザ・ギネスです。急遽休みの人に代わっての出場で不安一杯でしたが、友だちが「大丈夫、里

体育の苦手な私が楽しめた

三年A組 平川未奈

体育の苦手な私が、今年の体育大会は楽しむことができました。



大会後、お互いの健闘を称えあう3年生たち

「お・は・し・も」守り、避難訓練

九月一日の防災の日、中高合同による地震避難訓練が実施された。これに先立ち八月二十九日には教員研修会も行われ、高校の多田真二教頭から説明とともに避難訓練に関する各種資料が配付・提示された。

地震発生時の（避難場所）は大きく二手に分かれ、高校生が旧武道館跡地の駐車場、中学生は精華寮となっている（ただし、雨天時の避難場所は高校生が第二体育館、中学生が第三体育館）。

地震発生後の避難は二段階に

分けて行われる。今回は一般教室での授業時に地震が発生したと想定。（第一次避難）では頭部を守るため、各生徒が机の下に身をひそめ、机の脚をしっかりと握り、しばらく様子を見る。

同時に授業担当者は教室の出入口を開放し、避難口を確保。この間、授業担当者以外の教員は、避難経路の安全確認を行う。続いて（第二次避難）を開始。避難指示を受けた生徒たちは「お・

年々スピーチのレベルがアップ

第九回皇學館中学校・高等学校スピーチコンテスト



賞状と楯を手に、嬉しそうな表情の入賞者

小・中学生を対象とした第九回皇學館中学校・高等学校スピーチコンテストが八月二十三日、中学校セミナーホールにて開催された。今年は小学生の部四十四名、中学生の部四十三名の計八十七名の参加となり、会場は熱気にあふれた。

小学生の部はビギナーとアドバンストに分かれ、それぞれ「富士山」「スマートフォン」をテーマとした英文を暗唱、中学生の部では、「十年後の私」「笑い話」「インターネット」という三つのテーマの中から一つ選ん

でスピーチを行った。どちらの部においても参加者たちは日頃の練習の成果を大いに発揮し、白熱した素晴らしい

スピーチが繰り広げられた。結果は、小学生の部では（ビギナー）山田瑛心さん（トリニティインターナショナルスクール）（アドバンスト）前田さくらさん（大湊小学校）、中学生の部では澤村真衣子さん（豊浜中学校）がそれぞれ優勝に輝いた。

審査にも時間がかかるなど、年々スピーチのレベルが上がっているように感じる。これを機会にますます英語力に磨きをかけていってほしいことを期待したい。

英語科 小林誠治



先生からの注意事項を真剣に聞く生徒たち

県内外から298名が受講 教員免許状更新講習



年々受講者数は増えており、卒業生からは母校で受講する喜びの声が聞かれた

八月十九日から二十四日にかけて、教員免許状更新講習を伊勢会場及び四日市会場で開催した。五日間三十時間に及ぶ講習には二九八名が受講。三重県のみならず、千葉、

愛知、岐阜、滋賀、京都、奈良、大阪、鳥取など県外からの受講者の姿も目立った。本学での開講は今年で六回目。五日間のうち二日間は必修領域として「教職についての省察」「子どもの変化」「教育政策の動向」「学校の内外における連携協力」をテーマとし、後半の三日間では「伝統と文化の理解」「道徳教育・生徒指導」「教科内容の充実」をテーマに最新の教育事情を踏まえ、直面している教育課題や皇學館大学の特色、地域性に配慮した内容も取り入れた講習が行われた。講師は本学教員のほか、著名な外部講師も多数配置。講習後、受講者から「学んだことを今後の教育活動に活かしたい」「久しぶりに学生になった気分

日頃より多大なご支援をいただいている神社関係者および本学協議員の方々を招き、感謝の思いとともに今後のご指導と変わらぬご親交をお願いする「神社関係者懇談会」が九月十七日、開催された。

当日、会場となった鳥羽国際ホテルには約七十名が集い、和やかな雰囲気が進められた。本学からは佐古一洵理事長はじめ清水潔学長ほか十三名が出席。佐古理事長は挨拶の中でご参加の方々に謝意を示すとともに、大学運営に関する社会状況や取組みについて述べた。また、学校法人としてさらなる教育・研究の発展をめざすべく今年立ち上げた「教学振興会」(第五十一号参照)についても詳しく説明。振興会設立趣旨へのご理解と活動へのご協力を賜りたい旨、お願いした。

その後、ご来賓を代表して北白川道久神社本庁統理がご挨拶。続く懇親会では鷹司尚武神宮大宮司より乾杯のご発声をいただいた。あちこちから和気藹々とした談笑の音が聞かれる中、名残惜しくもお開きの時間に。そして、田中恆清神社本庁総長の方歳三唱で盛会のうちを終了した。

「教学振興会」へのご支援をお願い 神社関係者懇談会

日頃のご支援ご協力に對して謝意を述べる佐古理事長

はじめまして。中世古祐希と西井理道と申します。私達二人は皇學館大学コミュニケーション学科の卒業生で、縁あって同じ会社のマレーシア工場で働かせて頂いております。入社以降ずっとマレーシア工場に併設されているオフィスで働いており、私は丸三年、西井は丸六年マレーシアに住んでいます。

最初マレーシアに赴任する際は新しい生活への期待二割、不安八割といった気持ちでしたが、周りの皆様のサポートもありなんとか無事に過ごせている次第です。マレーシアでは大半の人が英語を話せるのですが、赴任当初は二人とも英語が得意ではない状態で(コミュニケーション学科の先生方、申し訳ありません!)、ほぼ現地に習得しました。仕事上のコミュニケーションもすべて英語で行っており、日々、日本本社からの指示を英語で社内へ連絡したり、欧米諸国の客先との連絡を取り合っています。マレー系、インド系、チャイニーズ系とオフィスに多様な人種が織り交ざっている様は日本では見ることのできない光景なので、面白いです。また、器用に四力国語(マレー語、中国語、タミール語、英語)を使い分けて会話している様を見ると感心してしまいます。

マレーシアと日本では文化も言葉も違いますので、やはりこちらの考えを理解してもらうのに時間がかかりますが、お互いの意思の疎通ができます。海外で働く人材に求められるのは、自分達の文化を押し付けたり価値観を強要するのではなく、双方がお互いの文化を理解し尊重できるような柔軟な考え方を持つことだと思います。そういう意味では多種多様な文化が混在するマレーシアは異文化間コミュニケーションを学ぶ上で最適な場所かもしれません。在学中の皆さん、異文化を直接肌で感じられるために、ぜひ一度マレーシアを訪れてください。きっと新しい発見があるはずです。

平成27年度 生徒募集要項

皇學館高等学校

募集人数	340名(6年生内部進学者含む)
入学資格	中学卒業者および平成27年3月卒業見込みの者
出願期間	平成27年1月8日(木)~1月16日(金) 午前9時~午後3時(土日および祝日は除く)
出願手続	①入学願書(本校所定の用紙) ②調査書(本校所定の用紙) ③受験料 12,000円(本校所定の郵便振替用紙にて、必ずゆうちょ銀行窓口で、お納めください)
入学検査	日時 平成27年2月2日(月) 午前9時~ ※追試験2月12日(木) 教科 国語、数学、英語、理科、社会 方式 マークシート方式
合格発表	平成27年2月9日(月)に合格通知を各中学校および本人宛に発送します(電話によるお問い合わせには、お答えできません)
入学手続	平成27年2月18日(水) 午後3時までに、入学金45,000円を納入してください(本校所定の用紙にて、銀行窓口でお納めください)
学費	入学時の経費 ●教育充実費(入学時) 200,000円 入学後の経費(月額) ●授業料 21,500円 ※各家庭によって補助金の額に差があります ●教育充実費 10,000円 ●修学旅行積立 4,500円 ●その他 4,400円

入試制度について
①特別進学コース・進学コースともに推薦制度(専願)があります。
②所属中学校長の推薦書により、学業・人物優秀と認められる生徒に対しては、学力特別奨学生、また顕著な競技実績を持つと同時に、本校の授業内容を習得できる学力を有し、人物優秀な生徒に対しては、スポーツ・芸術推薦およびスポーツ・芸術特別奨学生の制度があります。

第3回 オープンスクール(学校見学会)
日時・11月15日(土)
午前の部 10:00~12:30 学校説明、吹奏楽部による歓迎セレモニー、校舎見学など
午後の部 13:30~15:00 クラブ見学とクラブ説明など ※午後の部は自由参加

★軽食を準備します。学食(自己負担)もご利用できます。
★筆記用具、スリッパをご持参ください。
上記日程以外の見学も可能です。お気軽にお問い合わせください。入試広報部 ☎0596-22-0205

6年一貫教育 皇學館中学校

	A日程		B日程
	一般	専願	
募集人数	A日程(一般・専願)・B日程合わせて70名		
入学資格	平成27年3月小学校卒業見込みの児童(男女共)		
出願手続	●入学志願票(本校所定の用紙) ●受験料 12,000円(本校所定の用紙にてゆうちょ銀行窓口でお納めください)		
出願期間	平成26年12月15日(月)~1月7日(水) 午前9時~午後3時(土曜日は正午まで) ※12月21日(日)・23日(祝)・28日(日)~1月5日(月)を除く	平成27年1月26日(月)~2月4日(水) 午前9時~午後3時(土曜日は正午まで) ※2月1日(日)を除く	
出願方法	【持参する場合】 出願書類を取りそろえ、所定の封筒に入れて学校事務室へ持参 【郵送する場合】 出願書類と受験票返信用封筒(住所氏名の記入、返信切手)		
試験日時	平成27年1月10日(土) 午前9時~		平成27年2月7日(土) 午前9時~
試験教科	国語、算数、理科、社会	国語、算数、面接	国語、算数
合否発表	平成27年1月13日(火)		平成27年2月10日(火)
入学手続	入学金45,000円+教育充実費150,000円=合計195,000円(所定の用紙にて銀行窓口でお納めください)		
学費(月額)	●授業料 21,500円 ●教育充実費 10,000円 ●その他 4,300円(保護者会費、後援会費、校友会費、図書費)		

特別奨学生制度
人物優秀で、次のいずれかの基準を満たす者から選考し、入学金および授業料の納入を免除します。
①小学校長または学習塾長から学業成績が特に優秀であると推薦され、入学試験の成績が優秀な者(専願に限ります)
②入学試験の成績が特に優秀な者

皇中祭
日程・10月25日(土)・26日(日)
場所・大学記念講堂、中学校校舎
内容・合唱コンクール、クラス展示、講演会など
※本校に入学を希望する小学生・保護者の皆様を対象に一般公開を行っています。ぜひ、お越しください。

第3回 オープンスクール2014 ~皇學館で学ぼう~
日時・11月16日(日) 9:30~
内容・学校説明、入試案内、体験授業、入試対策授業など
※小学校3~6年生対象とします。

イベント情報(11~12月)

- 11月**
- 1 土 皇學館大学共催講座** 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 万葉の歌人—高橋出麻呂2—
大島信生(文学部教授)
- 5 水 百五銀行・皇學館大学共催** 621教室
第2回「人源輝業セミナー」
第1部 講演
「人源輝業」を語る!(里山資本主義についてのトークセッション)
藻谷浩介(日本政策投資銀行などを経て、現在、日本総合研究所・主席研究員)
和田芳治(人間幸福研究所所長、前・広島県総領事教育長)
- 第2部 コーディネーターと講師による質問タイム・フリートークタイム
【コーディネーター】
岸川政之(多気町まちの宝創造特命監・皇學館大学非常勤講師)
- 15 土 月例文化講座** 431教室
正直と浄明の心 白山芳太郎(文学部教授)
- 15 土 皇學館大学共催講座** 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会「お蔭年のお伊勢参り」
岡田 登(文学部教授)
- 22 土 古文書講座** 711教室
「近世大名関係史料」 上野秀治(文学部教授)
- 22 土 皇學館大学共催講座** 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
「四天王寺と今宮戎神社」 河野 訓(文学部教授)
- 29 土 神道博物館教養講座** 佐川記念神道博物館講義室
学芸員が語る三重の文化と魅力
「現代に生きる海女文化」 石原義剛(海の博物館 館長)
- 29 土 皇學館大学共催講座** 近鉄文化サロン阿倍野
「古事記」を読む(下巻)「清寧〜顕宗天皇」
白山芳太郎(文学部教授)

- 12月**
- 12 金 神道学科・神道学会共催** 431教室
白山芳太郎先生退任記念講演会
神皇正統記・職原鈔にみる伝統保持思想
白山芳太郎(文学部教授)
- 13 土 月例文化講座** 431教室
宮中のまつり・伊勢神宮のまつり
松本 丘(文学部教授)
- 13 土 皇學館大学共催講座** 近鉄文化サロン阿倍野
「古事記」を読む(下巻)「仁賢〜宣化天皇」
白山芳太郎(文学部教授)
- 20 土 皇學館大学共催講座** 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 神道の作法と有職—一笏の話—
木村徳宏(文学部助教)
- 27 土 皇學館大学共催講座** 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
「大鳥神社における神仏習合と神仏分離」
河野 訓(文学部教授)

●各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認くださいませ
ようお願い致します。
●共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文
化サロン阿倍野(☎0120-106-718)へお願い致します。
●神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問
い合わせは(☎0596-22-6471)へお願い致します。
●史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります【先
着順】。お問い合わせは(☎0596-22-6462)へお願い致します。
●神道学科・神道学会共催 白山芳太郎先生退任記念講演会は、聴講無
料・事前申込み不要。お問い合わせは(☎0596-22-6455)へお願い致します。
●百五銀行・皇學館大学共催講座(人源輝業セミナー)は、事前の申込みが
必要になります【先着順】。お問い合わせは、百五銀行営業渉外部(☎059-
223-2365)へお願い致します。
●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)
へお願い致します。

編集後記
研究旅行の報告記に「英語なら
何とかなる」と思っていたが、実
際は、全くいかなかった。とあり
ます。海外へ行ったことで、自分
の能力や課題が把握できた様子が
うかがえます。「卒業生奮闘中」に
て紹介したお二人も、若いうちに
海外に目を向け経験を積むことは
必ずプラスになる」と体験から
語っています。ちなみに、お二人
が勤務する現地法人は本学が今年
度より語学研修を行う「マレーシ
ア・フトラ」大学のすぐ近く。彼ら
には今後何らかの形で協力頂く
ことがあるかもしれません。海外
に暮らす卒業生の皆さんが今後ま
すます活躍されることをお祈り
申し上げます。(企画部)

平成26年度 新カリキュラムに手応え



苗の植付けなど、講義で学んだ基礎知識を実地で確認



農業に関する専門的な知識・技術を学ぶ

農業を通して人材育成 作物栽培学講義・実習

「作物栽培学講義・実習」は三重県農業大学校との連携協定に基づき、現代日本社会学部の専門科目として平成二十六年入学生からカリキュラムに加えられた。背景には、本学が温暖な気候で農業が盛んな県南部に位置することや、建学の精

平成二十六年度より新カリキュラムがスタート。その成果が早くも出始めている。今回は新しく始まったカリキュラムの中から二科目を取り上げ、受講している学生に授業の様子や感想、学んだことを語ってもらった。

をめざす上で重要な布石となるであろう。また、他学科の学生も履修でき

「食卓の野菜が愛おしい」

授業は松阪市の農業大
学校で実施され、同校の
教員が講義・実習を担当
講義では県内で栽培され
ている主要作物の栽培方
法や消費者が求める(安
全安心)に応える生産管
理方法、農業関連産業を
進路とした際に役立つ基
礎知識等を学び、実習で
はキャベツ、ブロッコリ
ーとパインを栽培する。
履修生十名、聴講生三
名のうち、紅一点の田畑
美里さん(現代日本社会
学科一年)は講義で農業

るため、地域社会への貢
献を使命とする本学の学
生として、「第六次産業
化」や「地域再生」とい
った地域の活性化に向け
た取組みを考える絶好の
機会でもある。

心理学を網羅的に学ぶ 心理学概論Ⅰ・Ⅱ

文学部コミュニケーション
ン学科では、コミュニ
ケーションにおいて最も
重要な要素の一つである
心理学分野を強化するた
め、本年度より心理学に
関する講義が開講され
た。中でも「心理学概論
Ⅰ・Ⅱ」はその基礎とな
る講義で、知覚心理学や
学習心理学、社会心理学
などのさまざまな心理学
領域を網羅的に学ぶ。現
在、同講義の受講生はお
よそ二百名(概論Ⅰは約
百五十名、概論Ⅱは約五

「認定心理士」の資格取得も可能

一方、大学における心
理学教育の課題として、
卒業後の職業像をイメー
ジしづらいということが
挙げられる。しかし芳賀
教授によれば「心理学は、
あらゆる職場で最も求め
られるコミュニケーション
の基礎。特に福祉や医
療、接客サービス、さら

心の動きが解明される楽しさ

「最初、心理学にはあま
り興味がなかったが、今
では授業を心待ちにして
いる」と語るのは川上伊
織君(コミュニケーション
ン学科一年)。認定心理
士の資格が取れると知って
受講したところ、「記憶の
メカニズムや感覚、知覚
動機づけなど、今まで当
たり前すぎて意識してい
なかった心の動きが心理
学」



心理学の立場から「見る」を考える講義。実験を通して知覚に関わる心の処理メカニズムを学ぶ

皇學館ミュージアム
「九条家車図」一巻
紙本着色 江戸時代(写)

法量 縦 35.6 横 866.1 単位 (部分)

九条家伝来の網代車、違物見御車(半節御車)、違物見御車(長物見御車)、庇御車、唐御車(唐庇車)、尼御車等六種類(正確には七種類)の文車。すなわち御所車と輿について極彩色の図とそれぞれの用途や装飾仕様(文様ほか)などについて説明を施した図巻です。奥書からは元久元年(一一〇四)絵師定順に筆写させた図を外記三善信成が注進したものと

は家族、友人、さらに外国人まで、あらゆる人間関係が対象となる。だから、表情や視線、身振りなどの非言語的コミュニケーションまで含めて幅広い内容を学ぶ」と語る。

に基づき、至徳二年(一三八五)十一月三日書写したものであることが判ります。しかし、至徳の奥書をそのまま信用することは難しく、おそらくは江戸時代の書写本と思われる。尚、「丹鶴叢書」所収本とは図や奥書等に若干の相違が見られます。(小原家文庫資料のうち)

佐川記念神道博物館教養・学芸員
岡田芳幸

人事異動

- 退職**
学校事務室専任事務職員(A.L.T.)
トーマス・リチャード・マラー
平成26年7月31日付
- 採用**
学校事務室専任事務職員(A.L.T.)
エリック・ハモンド
平成26年8月1日付
学生支援部就職アドバイザー(事務嘱託) 楠 正志
企画部(地域連携推進室)事務嘱託 野口由美子
教育開発センター(地域課題学修支援室)事務嘱託 森 京子

学的に解明されるのが面白くなった」と語る。そして「もっと心理学を学び、在学中に認定心理士の資格を取りたい」と意欲を見せる。

今年度は「一般心理学」領域の授業が中心だが、来年度からは臨床心理学(人格心理学などの)「応用心理学」領域の授業も開講される予定。同学科の人間関係コースのみならず、英語コミュニケーションコースの学生にとっても、心理学の知識は将来大いに役立つはずだ。